

【一中】学びの先に自由がある

本文:

修学旅行1日目の晩に奄美島唄を披露してもらった「あまみ紬人（つむぎんちゅ）」の麓和幸さんが、パフォーマンスの最後に語られた言葉です。

お話をうかがうと麓和幸さんは、元吉本興業のお笑い芸人だったとのこと、成功と挫折を経て10年ほど前から島唄をやってますと言われていました。島唄だけでなく話で盛り上げたいけど良いですかといわれたので、本校の生徒はノリが良いですよ、唐津くんちで笛、鐘、太鼓に合わせて盛り上がりますからと言っていました。ステージでは島唄もですが、恋愛、告白の話で、生徒、職員を巻き込みながら楽しいひと時を提供してもらいました。

その最後に、生徒へのメッセージとして「学びの先に自由がある」と話されました。生徒たちは、盛り上がったあとだったので、その言葉の深さを感じなかったかもしれません。ステージが終わってすぐに、エンヤ、エンヤであまみ紬人さんにエールを送って良かったのにといった後、先述の言葉と告白の話題にかけて夏目漱石の逸話（日本男子たるものアイラブユーなどといわず、月が綺麗ですねとでも言っておけ）から、その逸話を男女が教養としてみにつけていれば、「月が綺麗ですね」で愛の告白が出来るよね。学ぶことで人生が豊かになるので、これからも学んでねと生徒に言いました。（その夜男子の部屋から「月が綺麗ですね」と叫ぶ生徒が多数いたとか…）

こんな蛇足の話は横に置いて、「学びの先に自由がある」の言葉は深いです。欧米ではシェークスピアの小説に出てくる場面を知っていないと文脈が理解できないことも度々あります。深い教養を身につける為にも、読書が大切ですし、歴史の逸話を知っていないと表面しか理解出来ないことも多いです。また、自分の無知を自覚しないと何も始まらないことも生徒はこれから何度も経験すると思います。

生徒には多くの学びをこれからも経験してほしいです。私も生徒に負けないよう頑張らねばと思っています。かつて教え子に「学ぶことでしか人生は変わらない」と話していました。

生徒が、学ぶ術と学ぼうとする気持ちを育てることが出来ればと考えています。保護者の皆様のご協力をお願いします。